

1. 評価結果概要表

作成日 2009年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0873100929		
法人名	(有) 大樹		
事業所名	グループホーム大樹		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町越安1993 (電話) 029-291-1717		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年2月18日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成21年 1月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 7 月 23 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋コロニアル 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(1月 31日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名	
要介護1	3 名	要介護2	5 名			
要介護3	4 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	1 名			
年齢	平均	82.5 歳	最低	54 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	笠間市立病院 館野歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この地域では、葡萄作りや菊作りを行っている家が多く、ホームの周りにも菊畑が広がっている。時季になると、花を頂いたり葡萄を頂いたりする機会も多く、利用者の楽しみの一つになっている。ホームの庭には野菜畑があり、無農薬で作った野菜を利用者と一緒に収穫し、美味しい食事を提供している。ホームは木造建築で木のぬくもりが感じられ、部屋やデッキからの眺めもよく、明るく開放的である。職員の対応は穏やかで丁寧であり、その人らしさを大切にしながら日々のケアに取り組んでいる。また利用者だけでなく、家族との絆も大切にしている。地域との交流をさらに深めていくために積極的に働きかけを行っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、運営推進会議の実施や自己評価の取り組みについて、入浴の支援などが指摘されており、運営推進会議を開催したことや自己評価を全員で取り組んだり、利用者の希望に応じた入浴支援を行っている。改善課題については、全職員で話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員から意見を聞き、自己評価に取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域の区長や民生委員、老人会の会長等地域の方の参加がありホームの取り組み内容などを報告し、意見をもらいサービス向上に活かしている。地域活動への参加について話し合いを行ったことで、地域で行われる芋煮会に今後参加する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族から何でも言ってもらえる関係を意識しており、面会時などに、ホーム側から問いかけて意見を聞くようにしている。出された意見等は職員会議で話し合い、反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に挨拶を交わしたり、菊の花を頂いたり、ホームで作った野菜をおすそ分けしたりしている。地域の小学生が遊びにきてくれたり、ボランティアの訪問など地域の方と交流する機会がある。地域で行われる行事に参加できるよう働きかけを積極的に行っており、今後芋煮会に、利用者と共に参加する予定である。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりを尊重し、安心と信頼のもとで、地域の一員として生活して頂けることを念頭に置いた理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が実践できているかを、日々の中で話し合ったり、お互いが確認するようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学生が遊びにきてくれたり、ボランティアの訪問など地域の方と交流する機会がある。地域で行われる行事に参加できるよう働きかけを積極的に行っており、今後芋煮会に、利用者と共に参加する予定である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的について理解されており、前回の評価結果については、話し合いを行い改善に向けて取り組んでいる。自己評価については、全職員から意見を聞き等しながら作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の区長や民生委員、老人会の会長等地域の方の参加がある。ホームの取り組み内容などを報告し、意見をもらいサービス向上に活かしている。		

茨城県 グループホーム大樹

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談しやすい関係であり、ホーム側からは連携が図れるように積極的に働きかけを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや家族の面会時、電話にて利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理など定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに、ホーム側から問いかけて意見を聞くようにしている。出された意見等は職員会議で話し合い、反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	顔馴染みの職員が支援できるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会は少ないが、全職員が情報を共有できるよう、研修内容を報告する機会を設けている。また、ホーム内で勉強会を行いながら学ぶ機会を作っている。	○	職員は、研修に参加するなど学ぶことに対しての意識が高いので、今後は多くの職員が外部研修に参加できる機会を設けていただきたい。また、内部研修が計画的に実施されていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や、県の連絡協議会に加入している。他のグループホームからの見学を受け入れたり、新事業所の職員の実習を受け入れた事例がある。		職員同士の個人的な交流から、今後はホーム同士の交流につながり、勉強会等を実施しながら質の向上に向けた取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始めている。やむを得ず、すぐ利用になった場合は家族や関わっていた方に来てもらうようにして、安心感を持ってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から教えてもらう場面も多く、またそういった場面が多くもてるように声かけに配慮している。利用者から労わってもらったり、励ましてもらうことが多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情から把握するようにしている。意思疎通が困難な場合は、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からの意見や要望を受け容れ職員の意見を活かした介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当者会議を行い、定期的に見直しを行っている。利用者に変化が生じた場合には、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に合わせて、通院など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。利用者に変化があった場合は、受診の際に手紙を添えて家族から状況報告して頂いたり、職員が同行したりしている。事業所の協力病院は、月1回の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の状態に応じて、本人や家族、職員等と話し合い重度化に向けた対応の方針を決めているが、重度化に伴う意志確認書の作成が整備できていない。		重度化に伴う意志確認書を作成し、家族等に意思確認をおこなっていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関わる内容を家族に報告する際は、居室で行うように徹底している。個人記録などの情報についても漏洩に配慮された保管となっている		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の利用者の状態や気持ちに配慮しながら、一人ひとりに合った生活が送れるよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家製の野菜を利用者と収穫したり、一緒に調理したりしている。彩りや食材にも工夫したり、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事出来るよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在、曜日は決まっているが、毎日入浴したい希望に応じた支援も可能である。入浴を拒む利用者に対しては、言葉かけや対応を工夫しながら行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事仕事や庭仕事など、生活歴や一人ひとりに合った力を活かし、日々の生活に張り合いが持てるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、馴染みの理美容店に行ったり、散歩や買物に出かけたり、お花見や植物公園に出かける等、季節に合わせた外出も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全面に配慮しながら、自由な暮らしの支援を行っており、職員全員で鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を実施しており、消火器訓練なども利用者と一緒にしているが夜間を想定した訓練が行われていない。	○	夜間を想定した避難訓練の実施や食料や飲料水などの備蓄品を準備する事と、災害時に地域の人々から協力を得られるように働きかけを行っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態やお茶以外の飲み物を提供する等工夫しながら支援している。食事量や水分量の記録がきちんとされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、お雛様を飾ったりと季節感が感じられた。共用の空間は清潔に保たれており、居間には暖かな陽射しが射し込めていた。利用者がゆっくり、居心地良く生活できる環境であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや時計など自宅で使っていた物が置かれていたり、本人が好きな物や大事にしている物が置かれており、その人らしい居室となっている。馴染みの物を持ち込んでもらうよう家族に協力を得ている。		